2005-2006 国際ロータリー

秋のRYLA

Rotary Youth Leadership Awards

ロータリー青少年指導者養成セミナー

自然とのふれあいから地球環境を考えよう

秋のライラ報告書

開催日　２００５年９月２３日（金）～２５日（日）
場　所　大阪市立信太山青少年野外活動センター
主　催　国際ロータリー第2660地区青少年活動委員会
ホスト　大阪本町ロータリークラブ

Rotary Youth Leadership Awards

国際ロータリー第 2660 地区

秋のライラ 2005～2006年度

「自然とのふれあいから地球環境を考えよう」

物の溢れる現代社会にあって「人と自然とのふれあいから地球環境を考えよう」というテーマで受講生の皆さんとロータリアンが一緒に考え、意見を出しあって、語り合う良い機会になることを願って開催いたしました。

開 催 日　2005 年 9 月 23 日(金･祝日)～25 日(日)

開催場所　大阪市立信太山青少年野外活動センター

開講式　　式次第

会場　青少年の家

司会　坂中良郎

開会点鐘	大阪本町ロータリークラブ 会長	松村榮一
国歌斉唱	「君が代」　ソングリーダー	田中留美子
ロータリーソング	「奉仕の理想」　ソングリーダー	田中留美子
開会宣言	大阪本町ロータリークラブ ライラ実行委員長	田　晴重
歓迎の挨拶	大阪本町ロータリークラブ 会長	松村　榮一
来賓紹介と挨拶	地区青少年活動委員会 委員長	泉　博朗
挨拶	国際ロータリー第2660地区 ガバナー	神崎　茂
	地区ローターアクト委員会 副委員長	竹村ルミ子
	大阪市立信太山青少年野外活動センター 所長	堀内信男
閉会点鐘	大阪本町ロータリークラブ 会長	松村榮一
基調講演	頌栄短期大学学長 大阪府青少年財団理事（社)日本キャンプ協会会長	酒井哲雄

ロータリーソング「奉仕の理想」

奉仕の理想に集いし友よ

御国に捧げん我等の業

望むは世界の久遠の平和

めぐる歯車いや輝きて

永久に栄えよ　我等のロータリー　ロータリー

開会宣言

大阪本町ロータリークラブ
ライラ実行委員会
委員長　田　晴重

初級ライラ受講生の皆さん、こんにちは、本日は、多数の皆さんにご参加賜りまして誠にありがとうございます。

また、受講生をご推薦していただきました各ロータリークラブの皆様に感謝し、心よりお礼申しあげます。

ライラのホストクラブとして当クラブは、この三日間を受講生の皆さんが有意義に楽しく過ごしていただけるようにと、今から半年前より会員一同、一生懸命準備してまいりました。きっと皆さんにとって、有意義なものになると確信しております。

このあと、各班に分かれてそれぞれの活動をしていただきます。もし、何か困ったことがあれば各班にロータリーパパと呼ばれるロータリアンが待機していますので、何でもご相談ください。

皆さん、この歴史ある信太山の自然を三日間十分に楽しんでいただきますよう心より期待しています。

それでは只今より、

国際ロータリー第 2660 地区秋のライラの開会を宣言いたします。

歓迎の挨拶

大阪本町ロータリークラブ
会　長　　松村榮一

皆さん、こんにちは。本日は秋のライラにようこそお越しくださいました。どうぞ三日間有意義な時間を過ごしていただきますようよろしくお願いいたします。

本日の秋のライラ開講式に国際ロータリー第2660地区ガバナー神崎 茂様、ガバナー補佐福本桂三様、地区青少年活動委員長泉 博朗様、地区ローターアクト委員会副委員長竹村ルミ子様、当、大阪市立信太山青少年野外活動センター所長 堀内信男様、地区青少年会委員の皆様、各ロータリークラブの皆様、ようこそお越しいただきました。残暑厳しい中ですが、よろしくお願いいたします。

今回のライラは「自然とのふれあいの中から地球環境を考えよう」のテーマの下に開催いたしました。私たちが住んでいるのは町の中で、建物はコンクリート、地面はアスファルト、舗装され殺伐とした緑の少ないところです。切符を買うのは自動券売機、コンビニでは棚から商品を取ってレジに持って行く、飲み物も自動販売機、会話をしなくてもよく 2〜3 日ぐらいであればまったくだれとも会話がなくても過ごせるような、人と人の関係が乏しくなっているご時世です。情報を集めるには、インターネットや新聞で得ることができます。そんな社会で暮らしている中でいろいろな問題やら現象が起こってきているような気がいたします。

ここでの三日間で自然の中で過ごし、人との会話を通して、仲間を知るという生活体験をしていただきたいと思います。歌手、中島みゆきさんの「帰省」という歌があります。

♪ 機械たちを相手に　言葉は要らない
決まりきった身ぶりで　街は流れてゆく
　人は遠くなるほど物に見えてくる
ころんだ人をよけて交差点(スクランブル)を
渡る　けれど年に2回　8月と1月　人は
　振り向いて足をとめる
　　故郷(ふるさと)からの帰り
束の間　人を信じたら　もう半年がんばれる

という歌詞で、故郷に帰って自然とふれあい、そこで懐かしい人とのふれあいを通して、人間らしい心がよみがえってくるのではないかと思います。

どうぞ、ライラでの三日間を人と自然にふれあって、この先の 10 年、20 年をがんばれる気持ちを持って帰っていただけたらと祈念し、歓迎のご挨拶といたします。

本日は本当にありがとうございました。

来賓紹介と挨拶

国際ロータリー第 2660 地区
青少年活動委員会
委員長　　泉　博 朗

皆さんこんにちは、ようこそライラにご参加いただきました。

今日は大阪本町ロータリークラブの皆様のご企画で開催することができました。

松村会長様、田実行委員長様、安藤幹事様、宮次様はじめ大阪本町ロータリークラブの皆様方、本当にありがとうございます。それではご来賓の皆様をご紹介させていただきます。

一言ご挨拶申し上げます。ライラとは一体何かということですが、

Rotary　Youth　Leadership　Awards、

日本語の、ロータリー青少年指導者養成プログラムの頭文字をとりましてＲＹＬＡといいます。

楽しく、プログラム通りのゲームを実施しながら人間関係の向上を図るセミナーです。参加者は全員全く初めての方ばかり、色々な業種の方が集まっておられ、利害関係のない集いの中で交流し、基本はみんなが楽しく語り合うことを目標にしています。

何が一番大切なのか。自分の主張を正確に他の人に伝えること、そのためには他人が何を思っているかを理解することが大切です。

人間関係は相互理解、これを機会に語り合っていただいて、自分の気持ちを表にどんどん出して、自己主張できるようにしていただければと思います。

一生の中で忘れられないことは結構たくさんあります。たった一度の出会いが自分の人生を変えることも多々あります。成功者と言われている人たちは、たった一度の出会いの中で自分を見つけて、そして進路を少しずつ変えていきながら自分を成功へと導いたのではないでしょうか。

「一期一会」の「一期」とは生涯のこと、一生に一度の出会いを大切にして下さいということです。

どうか三日間楽しく過ごしていただければと願っています。

開講式挨拶

国際ロータリー第 2660 地区
ガバナー　神 崎　茂

研修生の皆さん、ようこそライラにご参加いただきましてありがとうございます。
ロータリアンの皆さん、ご苦労様です。ロータリークラブは世界中の 168 ヵ国に 121 万人という大変大きな組織です。

第 2660 地区は大阪の大和川から北側に、86 クラブがあります。その人たちが若い皆さんのリーダーシップ研修のために、今日から三日間、皆さんに勉強していただこうというライラを開講させていただきます。

どうか、皆さん方には仲良くなってください。私共の願うことは、皆さんの職場やいろいろな場所において、ここで学んだリーダーシップを発揮し、青少年育成のリーダーになっていただきたいということです。

ロータリークラブは世界中で様々な活動をしています。その中で次世代、皆さんのような若い人たちが健全に育って、将来は世界の平和のためにいろいろなところで貢献してくれることを願っています。

私は手を挙げて「やぁ！」という挨拶をさせていただきました。ロータリアンになりますと、みんな友達同士、「やぁ！」というのは仲間意識の表れです。

研修生の皆さんは、今日ここで初めてお会いになったことと思いますが、どうかできるだけ仲良くしていただいて、コミュニケーションを図って、三日間の研修をエンジョイしていただきたいということをお願いし、私の挨拶とさせていただきます。

挨 拶

国際ロータリー第 2660 地区
ローターアクト委員会
副委員長 竹 村 ルミ子

高橋委員長が所用のために出席できませんので、メッセージを預かっています。代読させていただきます。

皆さん、こんにちは、二泊三日の秋のライラにご参加いただきましてありがとうございます。この三日間のセミナーを通じていろいろなことを学習してください。

さて、ロータリーが皆様方青少年を対象にした奉仕プログラムの一環としてローターアクトクラブを作り後援しています。

ローターアクトクラブは、本日のライラに参加していただいている方々と同年齢の 18～30 歳までの青少年男女を対象にしたプログラムで、当 2660 地区には 21 クラブ、約 280 人の会員が活動しています。

また、世界では 158 ヵ国、7,800 クラブ、18 万人の会員がいます。では一体何をしているのかといいますと、毎月 2 回、1 時間 30 分の例会を開催し、いろいろなことを話し合ったり、講師の方に来ていただいて講演を聞いたり、ゲーム感覚でいろいろな勉強をしています。ただ、一般のサークル活動と違う点は、ロータリークラブと同じように奉仕活動を通じて友情を深めていこうというのが大きな目的という部分です。クラブによって様々ですが、施設の子供たちとのふれあいハイキング、盲学校の生徒さんのための点字の地図作り、絵本の朗読、野外でのバーベキュー、お花見例会、一泊研修、海外研修等の活動をそれぞれのクラブ毎に、奉仕活動と親睦活動をうまくミックスさせながら、自分たちで立てた目標を年間テーマに活動するのがローターアクトクラブです。これから 3 日間、皆様方は講演を聞いたり、グループで討議をして発表したりしながら、リーダーシップについて学習されると思います。

最後になりましたが、青少年活動委員会の泉委員長並びに今回のホストを務めていただきます大阪本町ロータリークラブの皆様方には、貴重な時間を拝借してローターアクトクラブのＰＲさせていただきましたことに心より感謝申し上げます。

では、ここでローターアクト地区代表の沢田君をご紹介させていただきます。今回のライラを通じて、もう一歩進めてローターアクトクラブに入会してみたいなと思われたら、是非沢田君に声を掛けていただいて、もう少し深く聞いて、できたら入会していただければ幸いです。

三日間を十分に楽しんで下さい。そして一人でも多くの方と出会われて友情を深め、自己研鑽し、一度しかない人生、今日のことがきっかけになってよい方に変革していかれたら嬉しいなと思います。何よりもこのセミナーを盛り上げていかれるのは皆様お一人お一人だと思います。主人公になったつもりで大いにエンジョイしてください。本日はありがとうございました。

挨 拶

大阪市立信太山青少年野外活動センター
所 長　　堀 内 信 男

皆さん、こんにちは、秋のライラにご参加の皆様、主催者の国際ロータリー第 2660 地区青少年活動委員会の皆様、そしてロータリークラブの皆様方のお越しを歓迎したいと思います。

今日は 24 節季の秋分です。今日から三日間、信太山で秋のライラに参加していただき、自ら研鑽するという機会を是非、有意義なものにしていただけたらと思っています。

先般、衆議院議員の総選挙が行なわれました。暑い中での選挙でしたが、自民党の 296 議席という結果になっています。これは改革が国民に認められたのかなと感じています。

私共の施設、組織も改革にあてはまるかと思います。この施設は、これまで大阪市の人に優しいものづくりの施策の中で整備してきました。高齢者、障害者の方、子供たち、女性たちとあらゆる方に、同じ条件でお使いいただきたいということで運営しています。

私共の施設も改革をしていきたいと考えています。これまでと同じような慣習の中で同じような方法で運営をするのではなく、常に改革という中で施設を運営することによって、利用される皆様方の立場に立った運営ができるのではないかと考えています。

今朝の新聞を見ていますと、小学生による校内暴力が前年度に較べて 18.1%増加しているそうです。1,890 件、教師に対する暴力が 32%、この原因は子供の忍耐力の低下、保護者が学校に対して好感情を持っていない結果だと言われています。これは小さい時に人と人の交わりのトレーニングができていない結果ではないかと評論家がおっしゃっています。

自然の中で人が交わることによって他人を理解し、自分を見つめ直す、そういうトレーニングが不足しているということです。私も同感です。野外活動、キャンプというプログラムを肌で感じながら、これからの歩みを続けていただけたらと思っています。

集まりの中で自分を改革する道筋を立てていただけたらと思います。そんなことができたら、施設を提供させていただきました私共も嬉しい限りです。

この研修会が成功裡に終わりますようご期待し、ご挨拶とさせていただきます。

基調講演

頌栄短期大学学長

酒 井 哲 雄 氏

序章：

21 世紀の文明のパラダイスは自然をぬいては考えられません。今回の秋のライラの講演に際して、春のライラで 2560 地区パストガバナー深川純一さんの基調講演の要旨が送られてきました。その中で、とくに私が教えられたのは、米国の神学者のポール・ティリツヒが指摘した教育の３つの分野、第一は技術教育、Technical Education、第二は Humanistic Education、人間がお互いに心豊かになろうという教育。第三は Inductive Education、人間とは何かという真実に招き入れる教育があるとされました。

その中で日本では第一の教育の Technical Education に重点を置いて、第二、第三の教育の欠落が自然を考えるときにも、再検討していかねばならないと思いました。

しかし、ここで自然という用語を使うときにも、自然には大自然あり、中自然あり、小自然ありとすることも念頭に置いて考えてほしいと思います。所謂大自然とは大宇宙、中自然とは南極、また極北、高山帯、海底で、行動か生存に特殊な装備を必要とする自然空間であります。学術的ではないですが、私どもが日常的にふれあう自然と言えば小自然の範鋳でと理解させて頂きましょう。

１．Ｊ曲線で考えよう

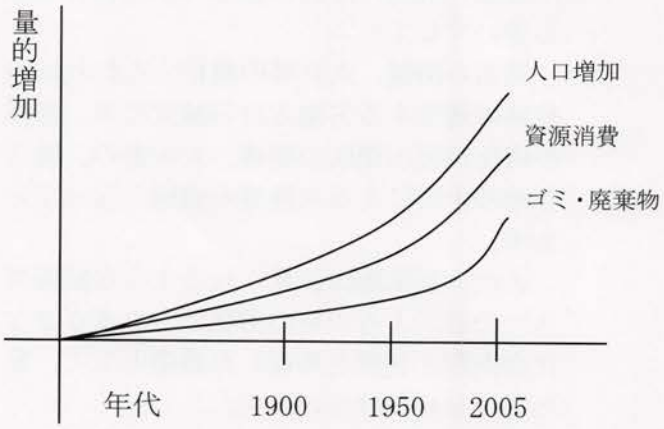
地球環境を考えるとき、環境に大きな変化を引き起こしたいろいろな現象を３つあげてみました。その１つは世界の人口の爆発的増加です。人類がこの地球上に存在し始めた頃からと言うより、過去 100 年前からとって見ても、現在の人口の数的増加は恐らく右肩上がりの急カーブを取っての増加でしょう。（註：この論は信州大学の先生の考え方を引用させて頂きました）

それとともに人類生存のために費消する化石燃料（石油、石炭、ウラン鉱石）は、近々数十年を比較して莫大な量を消費しています。

また、これに伴って CO2 ガスの大気中の拡散と蓄積される量は膨大なもので、これが今日の地球温暖化の大きな要因をなしています。これは同時に水の消費と同様です。

そして、人口増加に伴っての産業活動の活発化は大量生産であり、大量消費であり、これによって生じるゴミ、廃棄物の投棄、処理は産業革命時の人類のそれとは全く比較にならないものでありましょう。

それらを量的増加と年代との相関をグラフで画けばＪ曲線で描き出されます。このＪ曲線の意味するものの指摘するものを指標にして、今日の与えられた課題をご一緒に考えることといたします。



2．いま起こりつつある地球環境の変化を、

3つの事象から、とくに自然とのかかわりあいの中で注目しなければならないものをあげてみます。

1）異常気象を身近に感じておられるでしょう。アメリカ中西部を襲った2つの巨大台風、ハリケーン「カトリーナ」「リタ」です。これも異常な海水温の高温化といわれています。日本、中国大陸に襲来する台風は、太平洋の海水温の上昇、海洋のエルニーニョ現象が起因したものとされ、それは地球温暖化が進行している証右とされています。これは地球を取り巻く大気の CO2 の甚大な影響であると、起因が指摘されています。これの影響はアラスカの南極海の氷河の崩落にまで及んで海水潮位の上昇、ひいては低地への海水の侵入、島の水没まで起こりつつある現状であります。

高温化ということから、日本での出来事から一例を申せば、明治初年、日本に来たキリスト教の宣教師たちの仕事の一つに、永続的に生活するため、日本国内の温度、湿度、気候など簡単な天気図を記入して、夫々の派遣された宣教師団の本部に送った記録を、米国のある図書館で発見しました。それを見ますと、温度、湿度は2乃至3度ぐらい、特に大都市では高くなっていることに発見しました。

異常気象はフロンガスの影響によってオゾンホールの拡大、それは夏などの日光浴、海水浴の抑制などにも関係してきているのを考えると、身体活動、社会生活、健康にも大いに問題を投げかけているわけです。

2）自然の荒廃は身近に感じておられる事象も多いでしょう

里山の消滅、人口林の薮化、これらは山村林の養生する労働人口の減少です。自然の劣化は河川堤防の崩落、大災害の、特に各地の大雨による大惨事の遠因となっています。

また、足尾銅山に見られるような鉱毒ガスの公害による山林の劣化は、さまざまな社会問題と自然を無視した典型として、私たちに見せつけています。

これは日本国内にとどまらず、木材の過剰な需要に応じるために、貴重な熱帯雨林の消滅を招来しています。食糧増産のため自然林の消滅、そのための灌漑の地下水汲み上げによる塩水化等に、また、急激な産業化による農林人口の減少による農地の放棄による砂漠化と、枚挙にいとまない程の自然の荒廃は急速に進行しています。

こればかりではなく観光、登山などのハードインパクトが自然を荒廃させていることにも目をとめてみなければなりません。屋久島をはじめ各地の国立公園、地球遺産として指定された各所の許容量を超えたビジターは、自然の荒廃に拍車をかけているのも事実です。

3）環境の変化で深刻な影をおとしているものは生態系の異変です。私自身の海のキャンプのゲレンデである四国東端の蒲生田岬の例を紹介しますと、過去百頭近くの海亀の上陸数は年々減少していると同時に、産卵数の個数の減少が目立ってきています。海亀に少子化現象が、遺伝子またホルモンの関係で起こりつつあることも心配をしています。ワニの雄雌が問題になるとともに野生生物の大量飼育、大量養殖のため、ニワトリのインフルエンザによる大量死、狂牛病、また、観光用の餌づけのため、鳥や猿などの大量死や変形種の出現は、物言わぬ生物にも時々刻々の人間の自然界の介入、特に遺伝子組み換えなどは、もっと大きな異変を今後起こしつつあるのではないかと、直視すべきでありましょう。

3．変化に気づくプロセス

1）地球環境の変化に気づくことは、そう特別なことではありません。日常生活の中で、所謂五感を通してその変化に気づかせられます。嗅ぐ、さわる、味わう、きく、見るといったことを通して、前述の地球環境の変化を身近に感じさせてくれます。私は現に大阪のど真中に生活しています。小さい庭ですが、一本のいちょうの古木があります。近所から苦情も多いのですが、早朝からクマゼミの大合唱です。以前はアブラゼミ、ニイニイゼミが鳴いていました。そして秋の最初にはツクツクボウシが定番であ

ったのが、セミの世界でもクマゼミが近畿全域に出現してきたのは、気候の熱さが昆虫の世界にも異変があることに気づかされたのではないでしょうか。

その昔、コンコードの森を散策して自然の移り変わりを身近に感傷したヘンリー・ソローではないが、都市の公園にまだまだ残る自然のフイットンチッドのほのかな香りを匂げる雑木林を歩いて、空気汚染を実感し、これをどの様に清浄するための方策を考える端緒をつかむことになるのではないでしょうか。

そのように一点一画を見る、また、さわる、触れることから、その変化に気づくことになるのでしょう。

2）情報手段の急速な開発は目を見はるばかりです。地球環境でのさまざまな情報は、インターネット、雑誌、新聞、また政府諸機関の広報、各種NPO団体より無数に発信されています。これらの情報をキャッチ、精査して自分の情報として、適次に比較することも変化の手掛かりを得ることにもなります。手っ取り早いものとして、自然保護協会の機関紙なども手軽に情報を教えて呉れるものでしょう。

3）現実に私たちは本モノに触れることはごく稀です。と同時に教科書的な知識の断片的な集積が、環境乃至自然界に存在するものに対する知識であります。総合的且つ多様な仕組みの中で存在する事物を理解することは、専門家以外のものにとっては不可能でありましょう。そして、そのことが許されたとしても、それは疑似体験でしかあり得ないでしょう。そこで私の提唱しているのは、体験と本モノに触れる体験学習の繰り返しによって環境を知り、変化に気づくことが可能であろうと思います。

そのためにも、各地で催される自然観察会や具体的な目標を持った生涯学習機関の主催する体験学習を主とした行事やプログラムに参加されて、そのきっかけを掴まれるのも良いでしょう。大阪市の自然史博物館なども利用されるのも一つの方法です。

4．自然への回帰の道としての環境教育

1）自然に対するローインパクト

昨今、富士山麓、東海道自然道への屎尿が問題となって世界遺産の選にもれたとか、世界遺産に登録されたが故に、屋久島の屋久杉が根元を踏まれて危機にあるとか、また、熊野古道の杉並木も同様の被害を受けているといわれています。これらは上高地への登山者の入山の総景規制にみられるように、弱い自然との共生は、一つはローインパクトが不可欠であることを意味しています。

或る古人が申しましたように、“人間のそこにいること自体、地球環境を悪くする”とはまさに名言です。

悪化させた地球環境を回復する、再生することはほとんど不可能であります。先日も群馬県と栃木県の県境にある足尾銅山の跡を見てつくづく感じました。今尚、10数億の巨費を投じ、公害の山の復旧に、人間のささやかな営みがつづけられている現実を見て、しみじみ感じました。野外ばかりではありません。人間存在のもとである水、空気はじめ地球の自然環境を考えると、人間が消費するエネルギーの抑制もローインパクトであらねばならないことは明白です。Enough－これで十分と言う思想は、環境教育の徹底から生まれるものであると思われます。このことが自然を守ることになります。

2）地球環境を考えるときの理念的な概念に“Ecology”の考えを是非入れてほしいと思います。エコロジーの言葉は、ドイツの生物学者エルンスト・ヘッケルの造語とされています。そしてエコロジーとは、生物と外界との関係を扱う生物学を称したものです。生ある有機体と外界－環境的外界との多様で複雑な現象、又、相互関係と定義しました。そして、自然のオイノコミヤ、即ち、The economy of Nature は、生体と環境との関係構造や生体相互関係などの自然秩序の全体を包括するものと理解したいのです。そして、現代の環境危機は、アリストテレスの人間中心主義の考え方や、旧約聖書の創世記一章に見られる人間による

短絡的な自然に対する管理者としての考え方の思想の再検討を主張した、ディーンホワイトの主張に耳をかたむけることも必要です。それは、自然界や地球は誰れが所有し支配しているのか、もし人間が所有しているならば所有権の範囲、責任などの理念大系も、地球環境を思想する大きな課題であることも、いまここでの問題解決のみならず皆さんで論じ合って頂きたい問題です。

アメリカの原住民の人たちは、自然への思いやりを持って歩いたと申します。広い草原を歩くときも、一列に縦になって歩くのではなく、横一列になって歩いたそうです。

極北に住むイヌイットの住民は、自分たちが食べられるだけのものを獲って生活をしていると言われています。余分の余計なものを蓄えたり獲ったりしない自然界の法則なり、自然界の仕組みを十二分に考えての、生活知恵を働かせて生活しているのです。これもEcologyの一つの典型です。

3）自然環境を考えることは、教育云々のことも重要ですが、具体的な環境問題に対する行動（アクションプラン）が出てこなければ無意味です。

里山の再生保全のためには森林ボランティアの働きや労働キャンプ、湖沼や海岸線の環境保持のためのビーチコーミングの働き、稀少動植物の環境観察保護活動などの活動のほか、日常生活の中でのアクションプランも少なくありません。

省エネ運動、排ガス規制、節水にはじまる生活のたたずまいからの資源利用の見通しは、生活の中でスピード、快適さ、便利さ、豊かさばかりの追求でなく、資源の持続的循環型への移行を追っています。３ＲであるRecycle、Reuse、Reduceが今後の自然環境を考えての、一つの指標であるかとも考えます。

アフリカのある国の大臣のマータイ女史の“モッタイナイという思想も、これからの環境教育、また、私たちの生活合言葉なのかもしれません”と申したことは名言でしょう。

5．まとめ

“1年先を考えるものは種を蒔き、10年先を考えるものは木を植える。100年先を考えるものは人を育てる”

この言葉は数年前、アメリカ、ニュージャージー自然学校を訪ねたとき、その食堂中央のマントルピースの上に掲げられていた銘板の言葉です。アメリカには沢山の地球環境を考えた指導者が1960年前後から多数活動しました。

その一人、レイチェル・カーソンは、自然とのふれあいから地球環境を考えたかけがえのない人物でした。“沈黙の春”“センス・オブ・ワンダー”はその傑作です。是非とも一読をおすすめします。

カーソン(1907－64)の最後のメッセージは、「まだ生まれていない世代にとっての脅威は、はかりしれないほど大きいのです。彼らは現代の私たちが下す決断にまったく意見をさしはさめないのですから、私たちに課せられた責任はきわめて重要です。」と。

人遠く　水草清き所に　さまよひ歩きたるばかり
心慰むことはあらじ

―兼好法師［徒然草］―

国際ロータリー第2660地区　2005年　秋のライラ（Rotary Youth Leadership Awards）

プログラム＆フィールド

初　級

9月２３日（金／祝）　【第１日目】

時間	プログラム	フィールド
13:00	受付開始（青少年の家）	ロビー
13:30	開会式（進行：大阪本町ロータリークラブ）	体育館
	講演会	
15:00	オリエンテーション	大研修室
	コミュニケーションゲーム	
16:30	テーマ討論会（進行：チームライラ）	大研修室
18:00	夕食（給食）	食堂
19:00	フリータイム（入浴）	
21:00	班長会議	大研修室
	スタッフミーテイング	
22:30	就寝（青少年の家泊）	

9月２４日（土）　【第２日目】

時間	プログラム	フィールド
7:00	朝のつどい（モーニングウォーク）	
7:30	朝食（給食）	食堂
	プログラムレクチャー	
9:00	〔午前のプログラム〕	
	～信太の森の探険プログラム１～	
12:00	昼食（弁当）	
13:00	〔午後のプログラム〕	
	～信太の森の探険プログラム２～	
15:30	野外炊事準備	自炊場
17:30	夕食（野外炊事）	自炊場
19:30	キャンプファイヤー（スタンツあり）	第1ファイヤ場
20:30	フリータイム（入浴）	
21:00	班長会議（スタッフミーテイング）	大研修室
22:30	就寝（青少年の家泊）	

9月２５日（日）　【第３日目】

時間	プログラム	フィールド
7:00	朝のつどい	
7:30	朝食（給食）	食堂
9:00	ネイチャークラフト	自炊場
	～雑木林の整備と副産物を利用したクラフト～	
11:00	みんなで語り合おう	会場：フリー
12:00	昼食（給食）	
	退所準備、清掃	
13:30	閉会式、発表会	体育館
14:30	現地解散	
15:00	ライラ評価会（スタッフ）	

上　級

9月２３日（金／祝）　【第１日目】

時間	プログラム	フィールド
11:00	受付開始（青少年の家）	ロビー
	キャンプ場へ移動	グリーンヒルサイト
	オリエンテーション	
12:00	昼食（弁当）	
13:00	テント資材搬入	
	テント設営、環境整備	
16:00	夕食（野外炊事）	グリーンヒルサイト
19:00	焚き火を囲んでキャンプ雑学	
20:30	フリータイム（シャワー）	
22:30	就寝（キャンプ場テント泊）	

9月２４日（土）　【第２日目】

時間	プログラム	フィールド
7:00	朝のつどい（モーニングウォーク）	
7:30	朝食（自炊）	グリーンヒルサイト
	プログラムレクチャー	
9:30	〔午前のプログラム〕	
	～森林作業体験～	
12:00	昼食（弁当）	
13:00	〔午後のプログラム〕	
	～フィールドデザイン	
	アクティビティー～	
16:00	夕食（野外炊事）	グリーンヒルサイト
19:30	ナイトハイキング	
	＆キャンプファイア（かがり火）	
	（初級者、上級者合同）	
20:30	フリータイム（シャワー）	
22:30	就寝（キャンプ場テント泊）	グリーンヒルサイト

9月２５日（日）　【第３日目】

時間	プログラム	フィールド
7:00	朝のつどい	
	朝食（自炊）	グリーンヒルサイト
	テント撤収	
10:00	ネイチャークラフト	
	～雑木林の整備と副産物を利用したクラフト～	
12:00	昼食（弁当）	
	青少年の家へ移動	
13:30	閉会式、発表会	体育館
14:30	現地解散	
15:00	ライラ評価会（スタッフ）	

国際ロータリー第2660地区　2004年　秋のライラ（Rotary Youth Leadership Awards）

上級者　プログラム＆フイールド（詳細）

目標　【野外での生活テクニックを身につけ、人と自然の関係について考える】

9月２３日（金/祝）【第１日目】

時間	プログラム	ﾌｨｰﾙﾄﾞ	内　容	備　考
11:00	受付開始（青少年の家）	家ロビー		
	キャンプ場へ移動	ｸﾞﾘｰﾝﾋﾙｻｲﾄ		
	オリエンテーション	食事棟	スタッフ紹介、諸注意　等	
12:00	昼食（弁当）			ﾃﾝﾄ、ｼｭﾗﾌ、ｼｰﾂは管理棟ﾎｰﾙ
13:00	テント設営、生活環境づくり		テントクラフト、ロープワーク	ﾃﾝﾄはﾓﾝﾍﾞﾙ製のﾑｰﾝﾗｲﾄ
			書き込みボードの作成	各自が体験した事を共有する
			竹で食器を作る	竹の切り出し
16:00	夕食（野外炊事）	炊事棟	調理器具をいっさい使わない野外料理に挑戦する	
	～ワイルドに行こう！～			
19:00	たき火を囲んでﾐﾆﾚｸﾁｬｰ	ファイヤー場	たき火にまつわる話	
			フィールドデザインについて	
			ダッチオーブンについて	明朝の中華粥の仕込み
20:30	フリータイム（シャワー）		→タイムキーパーの設定	
22:30	就寝（テント泊）			

9月２４日（土）　【第２日目】

時間	プログラム	ﾌｨｰﾙﾄﾞ	内　容	備　考
7:00	朝のつどい(ﾓｰﾆﾝｸﾞｳｫｰｸ)			
7:30	朝食（野外炊事）	炊事棟	ダッチオーブンを使った野外料理を実践する	
	～ﾀﾞｯﾁｵｰﾌﾞﾝの魅力を知ろう！～			
8:30	プログラムレクチャー	食事棟		
9:30	森林作業体験	ｸﾞﾘｰﾝﾋﾙｻｲﾄ	間伐、枝打ち、下草刈り、階段づくりなどグループ単位で実践する	
		周辺	刃物の正しい使い方レクチャー	
12:00	昼食（弁当）			
13:00	フィールドデザイン	ｸﾞﾘｰﾝﾋﾙｻｲﾄ	人と自然が共存するための環境づくりについて考える（ﾚｲｱｳﾄ）	
	アクティビティー	周辺		
			自然観察ガイド	
16:00	夕食（野外自炊）	炊事棟	ドラム缶窯でピザを焼く、パスタ等	
	～野外でイタリアン～			
	屋台ミーテイング			
19:30	ナイトハイキング	ｼｰｸﾚｯﾄ		
20:30	フリータイム（シャワー）			
22:30	就寝（テント泊）			

9月２５日（日）　【第３日目】

時間	プログラム	ﾌｨｰﾙﾄﾞ	内　容	備　考
7:00	朝のつどい			
7:30	朝食（野外炊事）	炊事棟	そば粉クレープ等	
	～和と洋のｺﾗﾎﾞﾚｰｼｮﾝ～			
8:30	テント、物品撤収			
10:00	ネイチャークラフト	ｸﾞﾘｰﾝﾋﾙｻｲﾄ	雑木林の整備と副産物を利用したクラフト	
		周辺		
12:00	昼食（弁当）			
12:45	青少年の家へ移動			
13:30	閉会式・発表会	体育館		
14:30	現地解散			

ロータリーパパ ＆ ママ 分担表

初 級

第 1 班	ロータリーパパ	岡 田 俊 作	大阪本町ロータリークラブ
第 2 班	ロータリーパパ	松 田 一 雄	大阪本町ロータリークラブ
第 3 班	ロータリーパパ	樋 野 忠 志	大阪本町ロータリークラブ
第 4 班	ロータリーパパ	金本恒二郎	大阪天王寺ロータリークラブ
第 5 班	ロータリーパパ	安 藤 康 雄	大阪本町ロータリークラブ
第 6 班	ロータリーパパ	岸　孝太郎	大阪本町ロータリークラブ
第 7 班	ロータリーパパ	松 井 隆 雄	大阪天王寺ロータリークラブ
第 8 班	ロータリーパパ	中　　明 夫	大阪そねざきロータリークラブ

上 級

ロータリーパパ	矢 野 清 治	大阪本町ロータリークラブ

2005 秋のライラ フォト レポート イン 信太山

どれにしようかな !?

お・い・し〜ぃ

上級は只今調理中

ワイルドやね！

キャンプファイヤーを囲んでスタンツ開始

信太山の森の探検

途中で試験がありますよ

休 憩 中 ！

この木何の木 知らない木

楽しかったわ

ま た ね ！

2005年秋のライラ受講生一覧表

【初級ライラ】　61名

氏　名	推薦クラブ
鄒　選	大阪うつぼ
岩切賢一	大阪うつぼ
加藤拓巳	大阪うつぼ
河田一真	大阪鶴見
進藤雄介	大阪鶴見
久保コウタ	大阪鶴見
辻　義史	大阪南
田中寛子	大阪西
堀　志帆	大阪フレンド
平松和夫	吹田西
常石　誠	吹田西
今井敦朗	吹田西
サマンサ・ミッシエル・アンダーソン	吹田西
沢田英士	東大阪
日野真一	東大阪
上野裕紀	東大阪
陳　梅隠	箕面中央
渡辺経彦	摂津
杉本佑允	摂津
野中厚志	摂津
高橋　彩	大阪なにわ
寺田　絢	大阪なにわ
李　落落	大阪阿倍野
茶畑禎孝	大阪中央
設楽忠勝	大阪中央
杉浦健一	大阪中央
吉川　学	大阪中央
エマ・オーケルマル	大阪天満橋
鈴木寛史	新大阪
サラ・ローズ	大阪城北

氏　名	推薦クラブ
勇　香織	地区青少年交換委員会（ローテックス）
清水直子	地区青少年交換委員会（ローテックス）
森下哲志	大阪本町
本多高男	大阪本町
瀬名波優太	大阪本町
浅井翔太	大阪本町
乗本英紀	大阪本町
平田朋美	大阪本町
木村佳世	大阪本町
山田　瞳	大阪本町
中塔友紀	大阪本町
三木英里	大阪本町
道上絵里	大阪本町
道上あずさ	大阪本町
尾崎奈緒	大阪本町
杉本尚美	大阪本町
藤岡三哉	大阪本町
大嵜正孝	大阪本町
笠島瑞代	大阪本町
柿野起沙子	大阪本町
吉次廣祐	大阪本町
藤田　静	大阪本町
谷　恵美	大阪本町
森下貴史	大阪本町
里井誠司	大阪本町
井上泰彦	大阪本町
小松裕宜	大阪本町
安藤晴重	大阪本町
陳　珮瀦	大阪本町
陳　家菁	大阪本町
黄　彦嵐	大阪本町

【上級ライラ】　8名

氏　名	推薦クラブ
岩井伸治	大阪住吉
小島朋子	大阪船場
菅沼史恵	大阪南
水谷光英	枚　方

氏　名	推薦クラブ
矢野　宏	大阪天王寺
中谷文香	大阪ユニバーサルシティ
國宗智美	大阪城東
岸　貴美子	大阪本町

【チームライラ】　◇市橋與宜　◇盛岡　豊　◇山本　浩　3名

みんなで語り合おう　初級ライラ

テーマ　「自然とのふれあいから地球環境を考えよう」
サブテーマ　自然環境の中での人との関係について

≪ 第 1 班 ≫

環境問題について、それぞれが思うこと

- 環境にやさしい旅行ツアーが流行
- 外国の海でも日本人のゴミが目立つ
- ゴミの処理施設が少ない
- ゴミの分別など、ゴミの出し方に工夫が必要
- 地域によって、ゴミの分別方法が違うので統一すべき
- 温暖化防止のため、ビルの屋上緑化が進んでいる
- 街に落ちているゴミを拾ったり、冷房の温度を下げ過ぎない等、個人の地球環境への意識が必要
- カナダは、環境意識が低い。ゴミの分別も行われていない。ハイブリッド車等を導入したりすべき
- アメリカでは自動車を使う人が多いが、日本のようにもっと公共交通機関を導入すべき
- フィンランドでは、リサイクルの意識が高い

海洋汚染について、何ができるか？

- 自転車を海に投げ捨てない
- ハイブリットボートを導入
- ぶつかっても油が漏れにくい、何層もの壁があるタンカーを導入
- サンゴを植付ける
- 釣糸などのゴミを海に捨てない
- ダンプカーから直接、海へゴミを捨てるのを止める
- 浜辺の清掃活動

≪ 第 2 班 ≫

- 私たち2班は自然にやさしい生活について、みんなで語り合いました。まず、ゴミの分別について話したところ、地域によってゴミの分別のしかたが違うことがわかりました。
例えば、ペットボトルの分別1つにおいても、プラスチック包装材と本体を分ける豊中市、一方大阪市では注意を促すのみで、実際には実行されておりません。地域によってゴミに対する認識が違いますが、今回のライラセミナーを通じて、各個人が分別に対して共通した強い認識を持つ事が非常に重要であるという事で、みんなの意見がまとまりました。具体的に自然にやさしい生活とはどんな生活なのでしょうか？

・ 冷房は 28 度設定　　クールビズ・ウォームビズ
・ 電力のむだ使い(コンセントを抜くなど…)　買い物袋の節約
・ 節水、緑を増やそう　　洗剤の種類を考える
・ ハイブリットカーの利用(アイドリング禁止)　再生紙利用

私たち2班は、上記の事を1つでも日常生活で実践に移して、自然環境に配慮したエコロジーな生活をおくっていきたいと確信しました。

≪ 第 3 班 ≫

・ ペットボトルの量がすごい…再生利用すべき
・ 廃棄物と思っていた物が、工夫により利用可なのが分かった
　　回収したらお金の返還方式など、
　　政策誘導が必要　罰則など、
・ 地球の温暖化の正論を述べるだけでなくどうすれば止められるかという事を考えなければ堂々巡り燃料を中東から運ぶという非効率ではなく、地産培養への変換
・ 資源のムダ使いを省く
　　ビニール袋の有料化、
　　買い物袋持参　割り箸からわり箸へ、
・ 地球環境がどうなればよいか
人間にとって有害かどうかで物事を決めているのをどう考えるか、環境を守っているのか、人間を守っているのかそのスタンスが難しい。それには基準が決まればどう環境を守っていくかビジョンが立てやすい
・ 自然界の CO2 のバランスが壊れているのは、化石燃料を取り出して燃やしすぎているから→といって原始に戻すわけにはいかないから、現状を維持・環境を改善していくには
　　過剰包装など、過剰なものを減らす
先進国と後進国の思惑の差、先進国間でも利害関係の思惑があり、統一した環境対策をとりにくい

≪ 第 4 班 ≫

今ある環境をいかに守っていくか？
・ ゴミは分別、温度設定
・ 我慢できる最低の生活で
・ 消費者の意思を向上
・ 水、空気はきれいになってきた
・ 経済原理は人間の行動指針
・ 自治体ごとのゴミの分別は全国統一できないか？
・ まだいいかと思わず、今のうちから対応すべき
・ エタノール車の実用化を望む
・ 中国、テレビで全民節約の番組多い (アイデアを募る)
・ メモを書くのは新しいものより、チラシや裏紙を使う

・ 弁護士業界では、クールビズがまだまだ導入されていない
・ プライバシー(名簿等)保護→進行すれば足踏みする
・ 裏にまわると、流通が乏しい分高い価格で取引される
・ インターネットの普及により、個人情報の保護を重視するようになった
・ 情報の判断および情報元を確認し自分のものにする
・ 松本サリン事件(誤報情報に翻弄されていた)
・ 違うところから集まると似たタイプとは違う事を知れるというのがよかった
・ 新しい人に言われて知ることがある

温暖化について

チベットの雪がとけて揚子江の川が氾濫している。作物が作られなくなる
黄河は蛇行していたのが、まっすぐになる。
水面が上がると砂浜が日本の場合 70%なくなる
100 年で 0.6%(通常 1000 年で 0.5%)

・ 食糧不足　　伝染病(マラリア、黄熱病)
・ 生態系の問題　　ブラックバス(琵琶湖)
・ 食習慣の違い(国際問題)　　野生動物への保護運動
・ 狂牛病(生態系を人間が壊している)
・ 食品とコミュニケーションの違い　　中国、製造年月日の記載
日本　賞味期限
中国とインドネシアの国交問題に発展している

≪ 第 5 班 ≫

今、私たちが身近な環境問題として考えられるものとして、大気汚染・海洋汚染・森林問題など多々あります。今回、私たちは大気汚染について考えました。
大気汚染の原因として挙がったのが、車の排気ガス問題・クーラーの温度設定などが挙がった。これらの問題に対する具体的な意見をまとめます。

＊ 車の排気ガス問題

・ ノーマイカーディ(毎月 20 日)
実施率の低さ→宣伝を増やす(TVCMなど)
・ 電車通勤に対する補助制度の設立
・ 増税(自動車税)

＊ クーラー

・ 温度設定
→28℃にする→労働者から暑いとの声→クールビズ導入(今後の定着の可能性大)

＊ 工場の汚染物質

・ 汚染物質の垂れ流しなど
→地域住民が工場見学を行うなど厳しい目でチェックする
→その工場での製造プロセスなど可能なかぎり理解しようとする

＊まとめ

私たちは日常で環境問題を人と論じることは多くありません。そこで自分以外の人と意見を交換することは一人一人の環境倫理能力の向上になり、すばらしい経験となりました。

≪ 第 6 班 ≫

A. キャンプに来てから何か自然に対して考えが変わりましたか？

—自然のありがたみや仲間との関わりを通して自分が変わった！などということを感じましたか？—

僕は感じたよ！

B. 自分はボーイスカウトをやってきて学生としての取り組みはしてきたが、「社会人」として社会人同士で話しが出来たことはすごくよかった

人種の違う人と話せて考えが変わった！

C. 竹細工を通して仲間がまとまれた（自然を通して関わり合えた）
⇒いろいろな支えがあって、チームワークができた

D. 前はゴミを拾うことは嫌だった（触ることさえ嫌だった）
心境が変わって“ゴミを拾おう！”と思うようになった

E. 木、竹、木の実であんなにいろいろなものが作れるとは思わなかった
これまで人間が作ったものばかりに触れてきたけど

“竹”は以外に保湿性があって匂いもいいと知った

F. クラフトに自分がこんなに夢中になるとは思わなかった
自然を介して仲間が出来るという利点に気付くことによって、未来にも自然を残していこうと思った

G. 今は物が溢れている時代。その物のありがたみを知るという貴重な体験が出来た
「プラスチックの使い捨て」が多くなり大量のゴミがでる。でも、それをリサイクルしていこう！っておもった

H. 地球問題も一人一人がやっていったら解決する

I. 自然のダメな部分を隠してもいけない。衛生面などよくない！！

J. 人間と自然の利点のぶつかり合いが大切ではないか
昨日も竹の間引き（自然にとっての利点）とクラフトを楽しむ（人間の利点）がぶつかり合った。それが「環境」保護につながる

K. 今まで自然があたり前のものだったけど、今日キャンプを通して環境問題について考えて、自然を意識することで自然について考えるよい機会になった。今回のような日常の小さなテーマから地球問題という大きなテーマにも考えられるようになると思う

L. みんなの意見を聞いて心が痛い。自分は何も感じなかった←でも自然について考えていない自分に気付いたということがすごいことなんじゃないかな？ここからです！！

M. キャンプで楽しむことも大切だが、そこから何かを感じていくことを今回して欲しかった。そしてその体験を誰かに伝えていって欲しいと思う・・・(ロータリーアンより)

N. でも、このキャンプをずっと続けるのはしんどい

O. でも、社会でそれぞれがんばっている人が居るから、いいんじゃないかな？みんながみんな、こんな自然とふれあいばかりしていたら社会は回らない

P. 今回のキャンプはペットボトルがもったいなかった。1 日で 2 万円分の水がなくなった。そういう文化になってしまったんだね…(ロータリーアンより)

Q. やり方ひとつで変わると思う。1つのペットボトルを、用意されたお茶を汲みつつ、まわしていけばもったいなくない

R. 私も、お茶の冷たさを保って、毎日使えるようにクーラーの上にお茶を置いて冷していた

＊ まとめ

自然に触れ合い、環境にも向き合えた事で、私達が仲良くなれ友情がめばえたように、今後、ライラに来られる人達にも同じような経験をしてほしい。そして、そのためにもこの自然環境を守っていかなければならない！！

≪ 第 7 班 ≫

- リサイクルのペットボトルはなぜふたをはずすか
  →作業しやすくなる(つぶす時)
- 少年はなぜ非行に走るか
- 今の若者と親の考えのギャップが激しい
- 豊になって働く必要性がなくなった
- 親のしつけ、周りのしつけ(隣の人すら知らない現状)
- ヤンキーの方が筋が通っている　インドア系の方が怖い
- 戦争はありか、なしか
- 日本には兵力がない
- 核は造れるが、造ると世界で孤立化する
- やくざの由来は用心棒。自警団
- 少年犯罪について
- ガラスを割るなどは減った(昔のほうがひどかった)
- けんかしたら刺してしまう等、限度が分からない
- 昔と比べて、今は集団で群れる若者が多い。みんなで悪いことをするので、悪い意識がない。ストレス発散の場所がない→スポーツをする根気もない。情報が入ってくるので昔は行動しないとわからなかったことも、今は頭だけでわかってしまう→頭でっかち
- 自分の子供がそうなったら？→ビンタする
- 自然にやさしい生活とは？
- 高校を卒業し大学生になって、僕らは何をすれば良いのか
- やりたいと思ったことをやってみる
- 社会は若者のやわらかい頭だからこそ生まれるアイデアを求めている。
  →それは自然・地球を大切にするグローバルな視点から生まれる。

・ 障害を持っている人との関わり
・ ぽい捨て
・ 中学の時はかっこいいと思っていた
・ 痰を外で平気で吐く人がいる
・ 飲み終わった缶をその辺に置いていく人
　→誰かが捨ててくれると思っている
・ タバコ→かっこいいからだめとわかっていてもやってしまう
・ タバコは廃止できないのか→日本のお金になってる
・ マスコミがオーバーに報道するから少年犯罪がさわがれているけど、昔もあったのではないか。
・ なぜ働かなければならないのか
・ 自分の子供に何をさせたい？
・ 習字を習わせたい
・ ピアノ→自分が習っていなくて後悔したから
・ したいことをさせたい

≪ 第 8 班 ≫

テーマ:地球温暖化

・ 海面上昇…北極・南極、 氷溶
・ CO2 排出…車・工場など
・ 反芻(牛)…排出物が影響(地球温暖化)
・ エアコン
・ 車の改善(ソーラー、太陽熱)利用・電池など)
　…排気ガス減
・ 車の利用を控える(公共機関利用)電車サービス導入(JR)
・ ゴミの分別→ゴミ減少→温暖化・リサイクル化(指定ゴミ袋)
・ 大手企業…消費者→植樹をすすめる

人々の生活をもっと便利で快適に暮らせるように、高度に発展してきた。しかし、かえって人々の生活にもたくさんの問題ももたらしてきた。温暖化はその一つである。それを解決するには世界に生活している私たちからやっていこう。

閉講式　　式次第

会場　青少年の家

司会　坂中良郎

開会点鐘	大阪本町ロータリークラブ　会長	松村榮一
挨拶と修了証書授与	国際ロータリー第2660地区　ガバナーエレクト	岩田宙造
講評	地区青少年活動委員会　委員長	泉博朗
ライラ旗の引継ぎ	吹田江坂ロータリークラブ　会長	栢本淑子
閉会の辞	大阪本町ロータリークラブライラ　実行委員長	田晴重
ロータリーソング	手に手つないで　ソングリーダー	田中留美子
閉会点鐘	大阪本町ロータリークラブ　会長	松村榮一

ロータリーソング「手に手つないで」

手に手つないで　つくる友の輪
　　輪に輪つないで　つくる友垣
手に手　輪に輪　ひろがれまわれ
　　ひとつ心に
　おおロータリアン　おおロータリアン

手に手つないで　つくる友の輪
　　輪に輪つないで　つくる友垣
手に手　輪に輪　ひろがれまわれ
　　世界と共に
　おおロータリアン　おおロータリアン

閉講式挨拶

国際ロータリー第 2660 地区
ガバナー・エレクト 岩 田 宙 造

秋のライラにご参加いただきましてありがとうございます。「自然とのふれあいから地球環境を考えよう」というメインテーマの下に、青少年リーダー育成のプログラムを、大阪本町ロータリークラブのお世話で開催させていただきました。

皆様方、どうでしたでしょうか。楽しんでいただくと同時に有意義な時間を過ごしていただきましたでしょうか。ロータリー活動の一つとして、その目的を正しくご理解いただき、それなりの評価をいただけたかと気になっています。

先ほど、途中からですが、グループで討論されている中に参加させて頂き、皆様方の真剣な討論に感激すると同時に、日本の将来についても心強く思った次第です。二泊三日の行事に参加されましたことが、これからリーダーとしての何らかの形で役立ってくれることを願っています。

お世話頂きました大阪本町ロータリークラブ会長の松村榮一様、実行委員長の田晴重様はじめ関係者の皆様方のご努力に感謝し、また、楽しい目的に沿った行事を立派に成功させていただきましたこと本当にありがとうございました。

初級ライラ受講生の発表

◇第１班　　（留学生より英語で発表）

2660 地区のガバナー、泉委員長および皆様、このような機会を頂きまして誠にありがとうございます。私の名前はサマンサ・アンダーソンと言います。アメリカから来ました。

私は今回、環境問題について討議し、一つの結論に至りました。その結論というのは、アメリカ大陸の人々は色々なリサイクルの機会を与えられていますが、ただ、自己都合、怠慢さで他の選択肢を選ばれている人が多いと感じます。しかしながら日本では、環境問題について積極的に取り組んでおられ、環境対策を尊重されている部分があると思います。特にリサイクル、再利用、ゴミについて考えておられると思います。

このキャンプでは色々な楽しい機会を与えて頂きました。例えばコミュニケーションゲームなどです。昨日は、竹で割り箸、コップを作りましたし、キャンプファイアではダンスもしました。このような機会に普段で花かなかなか会えない友人に会えたことを光栄におもっています。このような機会を与えて頂きまして、どうもありがとうございました。

（留学生よりフィンランド語で発表）

皆さん、こんにちは。私はフィンランドから来ましたエマです。今回は環境について色々なことを学びました。フィンランドではリサイクルについては大変進んでいますが、怠慢な人々がまだまだたくさんいます。日本人は積極的にフィンランド人よりリサイクルについて取り組んでいるのでいるのではないかと思います。このキャンプは大変有意義なものでした。沢山の新しい友人ができましたし、新しい経験を学ばせて頂きました。例えば、ダンスを踊ったり、色々な楽しいことをして頂いて良かったと思います。もう一度言いますが、このような機会を与えて頂きまして、どうもありがとうございました。

◇第２班　　藤岡 三哉

この度は秋のＲＹＬＡに参加する機会を頂戴致しまして、ロータリーの方々にはお世話になりありがとうございました。

２班は「自然にやさしい生活について」ということで昨晩２時過ぎまで色々と語り合いました。まずはゴミの分別について話をしました。地域によってゴミの分別の仕方が全然違うということが話から分かってきました。ペットボトルの分別でも、プラスチック包装材と本体に分ける豊中市、大阪市では注意を促すのみで実際には分別が有効に実行されていないという具体例も挙がっていました。

今回は地域によってゴミ分別の違いを認識

したわけで、そのような話をする機会さえなかった我々にとって、ゴミに対して共通した強い認識を持てたというのは、良い機会であったとメンバー共々実感した次第です。

自然に優しい生活とはどんなことをしたらよいのか。具体的な例を挙げてみますと、冷房は28℃に設定しよう、クールビズ、ウオームビス、電力の無駄遣いを止める、買い物袋の節約、節水、洗剤の原材料を選んだものを使用する、ハイブリットカーを購入できるように頑張っていきたい、再生紙を使用する。小さなことでもひとつひとつ取り組んでいくことで、自然環境にやさしい生活、そういう活動に少しでも実生活で参加していけるのではないかと考え、エコロジーな生活を今後も心がけていきたいということで、話をまとめました。

◇第３班　　茶畑 禎孝

この３日間、「自然の中でふれあって地球環境を考えよう」ということで、班の人たちと考えてきた結果を発表させて頂きます。みんなの意見が一致していたのが、「これだけ大量の人数が集まったらペットボトルの出る量がすごい」ということでした。２日目にクラフトワークをしていて、今までゴミだと思っていたものが、見方を変えれば色々と工夫して利用できることが分かりました。使えるものはどんどんリサイクルしたらいいのではないかということになりました。

今まで捨てたり燃やしたりしているもの、ビール瓶、ペットボトルをもう一度洗って使えるものにしたらどうか。回収した時にお金を返還する方式を導入したらどうかという意見が出ました。そんな中でロータリーパパから色々と示唆を頂き、「地球の温暖化についてもテーマがあがっているけれども、どのように考えるか」ということで、酒井先生の講演をお聞きして思っていることを述べましたが、正論を述べるだけでは動かないではないかということになり、物事を違った視点から見ることを教えて頂きました。

自然保護ということをいっているけれど、結局は人間にとって有害かどうかで物事を決めているのではないか。生活をベースに考えなければならないので、そこを基準にしてどのように環境を守っていくかについて考えました。

やはり化石燃料を燃やしすぎている、電力の節約という意見が出ていました。身近なところではスーパーの袋の有料化、お菓子の袋も過剰包装ではないか、そういったところから改めたらどうかという意見が出ていました。できるのは地道なことです。

地球環境を悪化させているのは発展途上国が先進国に追いつけ追い越せでどんどん化石燃料を燃やしていることにあり、先進国と発展途上国の利害の一致が図れない面がありますが、追いつくために後押しをするという意味も含めて、効率の良い方式で工業を発展さ

せる方法を技術供与してはどうかという意見も出ました。

この３日間、自然とふれあって、更にグローバルなことにまで考えを馳せることができて、とても良かったと思います。ありがとうございました。

◇第４班　　杉浦 健一

私たちの班は、この３日間で、自然とつき合うことの難しさを学んだような気がします。何をするにしろ初めから成功はなく、失敗して成功すればいいと思っていたのが、最後の成功にたどり着くことも滅多になく、いざ実際に自分がしてみると全くできなかったり「こんなはずではなかった」ということが多々ありました。案外自分では何もできないということを痛感しました。この３日間、自然の中で過ごすことにより、人と人との助け合いの大切さを改めて思い知りました。自然の中では自分一人ではほとんど何もできず、人の力を借りてこそ何かができることを認識し、それが友情を生むということも学びました。信太山のような自然にふれる機会は、普段大阪の街中で働いている、学んでいる人にとって身近でないかもしれません。そういった中で我々は「多分できるだろう」「多分大丈夫だろう」と、自分の思い込みの中での自信を持っています。今回、自然にふれたことで、そういった自分のできなかったことを再認識できたことが、とても良かったと思います

◇第４班　　東大阪ローターアクター

僕はローターアクトに所属しており、ＲＹＬＡの感想を少しお話させて頂きます。こういったＲＹＬＡというイベントで、自然を介することによって普段は接点のない人たちが仲良くなり、本当に結びつきが強くなると感じました。

ローターアクトというのは、主に若い人が集まって仲間を増やし、そして世間に何かをしようとしている団体です。本日行ないました「みんなと語り合おう」という中で、僕たちは奉仕を行なっているわけですが、みんなの意見を聞いていると、実際に奉仕活動を行っている僕より、奉仕に対する思いが非常に強いと感じました。世間に対する思い、奉仕に対する思い、何かしたいけど発散する場がないというのを実感しました。皆さんがＲＹＬＡに参加されたということは、何か人生の分岐点ではないかと感じた方はいらっしゃいますでしょうか。分岐点として、熱い風を背中に感じる方はいらっしゃいますか。２種類の風があると思います。１種類は冷たい風、ＲＹＬＡに参加して自然とふれ合ったけれど帰ってしまったら、「楽しかったな」で終わろうとしている風です。もう一つの風は今回のイベントに参加することで何か熱いものを感じ、そしてその思いをどこかにぶつけてやろうという熱い風です。ここにいらっしゃる方は熱い風を感じていらっしゃると思います。何かをしようと思っている今、その風に乗ら

ないということは非常に間抜けだと思います。皆さんの熱い思いをぶつけたいという方は、東大阪ローターアクトに是非ご参加頂ければ幸いです。

◇第５班　　井上 泰彦

僕がＲＹＬＡに参加したのは友人から誘われたからで、来てみて大きなテーマにちょっとびっくりしてしまいました。21 世紀は環境の世紀だということをよく耳にします。普段から環境については人並みには考えてきたつもりでしたが、みんなと語り合ってみて、自分の考えている環境対策は小さくて、もっと考えるべきことがたくさんあると感じました。

酒井先生のお話をお聞きし、J 曲線の話、3Ｒの話、特に印象に残ったのは、インディアンが草原を歩く時に縦一列にならないで、真横に揃って歩くなど、ローインパクトな話が、特に僕には印象的でした。自分の環境倫理として抜けている部分のお話を皆さんから吸収させて頂いて、とてもためになったと感じています。

僕ら 5 班が今日の座談会で話し合ったことは、大気汚染についてです。大気汚染、特に問題になっているのはクーラーの廃熱効果や自動車の排ガスです。自動車排ガス問題として、毎月 20 日はノーマイカーデーだということをご存知でしょうか。僕は以前に聞いたことがありますが認知度は高くないと思います。知っていながら乗るのを控えようと思う方もほとんどおられないと思います。こういうことは、もっと宣伝活動を通じて世の中に広く知ってもらうべきだと考えます。先ほども出ましたが、ハイブリットカーなど、地球環境にやさしい車に興味を示して頂けたらと感じています。公共交通機関を利用して通勤する方を会社が援助する活動があってもいいと考えました。

このような会を主催してくださいましたロータリークラブの皆様にお礼を申し上げます。個人的なことですが、昨日のキャンプファイアの時に転んでしまって、ご心配をお掛けしたことを改めてお詫びいたします。ありがとうございました。

◇第６班　　加藤 拓巳

私たちは不安を抱えながらＲＹＬＡに参加しました。そのような中で集まった 6 班の 8 人は初日に与えられたテーマについて意見を述べたり、まとめることができず、正直に言うと先の 3 日間を上手く過ごすことに自信をなくしました。

2 日目の信太の森の探検プログラムで自然や竹にふれることによって私たちは心を開き始めたように思います。というのも、バーベキューで使用する食器を作る目標に向かって、みんなが自発的に作業を分担し、助け合い協力することによって会話が増え、また、笑顔も自然に増えるようになったからです。そのようにして出来上がった食器は、決して人か

ら見て完璧なものばかりではなかったのですが、協力しあって出来た食器であり、認め合ったものであるので、それで食べたバーベキューは格別でした。3 日間を通じて職種や年齢の違う人々と集団生活をすることは難しいかもしれませんが、それ以上に喜びや感動を得ることができました。

そして、自然にふれあい、環境にも向き合ったことで、私たちは仲良くなれ、友情が芽生えたように思います。今後、ＲＹＬＡに来られる人たちに同じような経験をしてもらうためにも、この自然環境を守っていかなければならないと６班８人は強く思いました。

この場をお借りしまして、今回のＲＹＬＡを主催して頂いた皆様、そして忙しい中を支えてくださった皆様、どうもありがとうございました。

◇第７班　　浅井 翔太

僕らの班は人との交流の大切さを知り、自然の知識のなさを知ることができて良かったと思います。最初、皆さんと会った時はぎこちなく、あまりしゃべることもできませんでしたが、コミュニケーションゲームを通じて、緊張もほぐれて仲良くなることができました。野外活動の森の探検プログラムを通じて、葛の葉伝説のような歴史上の物語の舞台になっていることを知り、新しい発見をしました。森では全く知らない植物、都会にはない漆のような危険な植物を見つけました。僕らの班は人との交流の大切さ知ることができて大変良かったと思っています。

僕は班で一番年下ですが、お兄さん、お姉さんたちを見て、協調性や気配りのすごさを見て刺激を受けました。僕は最近、どんな仕事に就いたらいいかを考えることがあり、そのことを相談できて良かったと思っています。この二泊三日は本当に来て良かったと思っています。そしてこのＲＹＬＡを主催して頂いたロータリークラブの皆様、どうもありがとうございました。また、キャンプファイアや色々なプログラムの企画をしてくださった方々、ありがとうございました。そしてお兄さん、お姉さん、どうも貴重な話を聞かせていただいてありがとうございました。多分、一生忘れないと思います。

◇第８班　　鈴木 寛史

今回、クラフトワークで竹を使って、竹から楽しく面白いものができてびっくりしました。今も、ニートの人たちが問題になっています。ニートの人たちがクラフトワークで楽しんだら、心を開かれるのではないかという気がしました。今回の二泊三日で、知識、見識が得られたのではないかと思います。

ロータリークラブが主催されたキャンプで多くのことが学べたと思います。皆さんと一緒に楽しさを共有できてとても嬉しかったです。どうもありがとうございました。

秋の初級ＲＹＬＡに参加して　　進藤 雄介

今回はこの貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

そもそもこの企画に参加するキッカケは、会社命令でもあり内心とても複雑な気持ちでした。でも、この信太山でのプログラムを実行していく中で、そんな思いもどこかへ消え去りました。

この会場へ初めて来たとき、色々な人達がいました。とにかく半分は女性だったので、とてもワクワクしていました。

開会式も終わり、全体でみんなとの距離を縮めると言うことで、簡単なコミュニケーションゲームをしました。こんな年になって、幼稚なミニゲームをして行くうちに恥ずかしい気持ちも通りこし吹っ切れました。緊張の糸もほぐれ楽になりました。その後、班に分かれての話し合いの場を設けていただいたのですが、みんな遠慮しがちでなかなか会話も弾まず、笑い声が飛び交っている他の班が羨ましく思いました。

２日目は、ライラのメインでもある、森の探検プログラムでした。一枚の地図と問題を手に森の中を歩き、自然について考え、触れ、なんだか少年時代を思い浮かべ懐かしい気分でした。

昼からは竹藪に行き不要な竹を切り、それを利用して竹細工に挑戦しました。班のみんなで協力し合い、夜のバーベキューで使うコップと箸作りで、我を忘れるほど無我夢中でした。ふと自分の班の様子を見ると会話も増え、笑顔も見られるようになりました。

実際にバーベキューでは、僕らの班しか竹細工を使用していませんでした。でもそれを使うことを誇らしく思い満足でした。

保湿効果も抜群の竹コップは自然の凄みを感じることが出来ました。

この３日間色々な体験をしましたが、第一に思ったのが自然に触れ合い、考え、行動することにより、素の自分を出し、打ち解け合えたことが、自然の力はすごいと思えるようになりました。全く知らない人達と班行動をする難しさ、コミュニケーションの取り方を改めて考えさせられました。今回限りの仲間達と誠心誠意をもって対応すること、一期一会は大切だと思いました。

話は変わりますが、また次にこのキャンプに参加する人達に、是非参加してもらいたいと強く思えるほど、キャンプを楽しむことが出来ました。また、このような自然を守るのも現代人の使命ですが、一つの些細なことからでも自然環境を破壊しないようにし、守ることで次世代の人達にこの自然を提供できたらいいなと思いました。

この体験に参加して本当に「よかった」と思えました。楽しい３日間、有意義に過ごすことができました。

秋の初級ＲＡＬＡに参加して　　河田 一真

今回、９月２３日～２５日にかけてのライラに参加できて、とても勉強になり、とても楽しく過ごすことが出来ました。
この秋のライラでたくさんの人と接することができ、自然とのふれあいから地球環境について考えようというテーマに普段考えないこと、なにげなく生活している中での地球環境の問題、みんなで話し合い熱く語り合えたこと、みんな一つになっていたと思います。このライラで班分けされていたのですが、ネットの進藤君と違う班だったので、えっ違うのって思いで、みんなと友達になれるか少し不安でした。

でも２日目には班の人達と、このライラのことや、プライベートの話等いろいろ語り合えて仲の良い友達ができました。今でも班の友達とは連絡を取合うくらいの仲になりました。自然とのふれあいの中で２日目の竹を切ってのコップ作りや、３日目の自然の物を使ってのオリジナル作品、僕はネックレスを作ったのですが、新しいおもしろさ、楽しさを体験できてよかったです。

この秋のライラで一番の思い出はキャンプファイヤーでの班の出し物でした。各班みんないろいろ出し物をしていたのですが、僕たちの班はなぜかコントになり、みんなで時間がないなかでのギャグ作り、真剣になり成功できるか不安でしたけど、みんなに笑ってもらえたし、楽しくできたので成功したのではないかと思います。

この９月２３日～２５日にかけての秋のライラを体験できて、楽しく、友達という財産もできてよかったです。
本当にありがとうございました。

初級ライラに参加して　　岩切 賢一

私は、この３日間ライラに参加できて有意義な時間を過ごすことができました。社会人になって間もないですが、このような集団生活をすることは、年齢を重ねていくうちに、徐々に機会が減っていたことなので、懐かしい思いを感じました。また、この３日間様々な職業、立場の人達と話せて、十人十色の考えを知れたことは、貴重な体験でもありました。

自然にふれる体験では、普段目に止めなかった、鳥や虫の鳴き声、植物の香り、風のざわめき等、五感を通して感じることに新鮮な気持ちを持てました。竹を使ったクラフトでは、色々な物をつくれることに驚き、実際竹一本から、コップ、皿、お箸、箸置き等の食器類をつくって、バーベキューの時に大いに活用でき料理も格別な味がしました。このように都会に比べて物にあふれていない環境でそこにある物を活用して、自分達で作った物に愛着がでてくるので、物の大切さというものを実感することができました。また、アイディア一つでは、おみくじ等がつくれて、その物の特性を活かすということに心を動かせ

るものがありました。

バーベキューやキャンプファイヤー等のイベントでは、最初は恥ずかしい部分があったのですが、参加しているうちにだんだんと夢中になっている自分がいることに後々気づきました。夢中になっているうちは気づかなかったことですが、そのことに打ち込めるということは心から楽しんでいたのだと思い、この３日間充実した日々を過ごすことができました。

秋の初級ライラに参加して　　加藤 拓巳

今回、この秋のライラに参加して、いろいろな人たちと出会い、貴重な体験ができました。

１日目には、初対面の人たちとテーマにもとずいて会話し、とても自分の為になりました。

２日目では、朝からラジオ体操をし、朝食後信太山自然の家の近くにあるハイキングコースを歩きました。ハイキングが終わって昼食後、昼から自然に生えている竹をのこぎりで切りに行き、自分らの手で身近な食器を作りました。そして、その作った竹の食器をバーベキューの時に使いました。とても良い体験でした。

その後、キャンプファイヤーでは、自分の班はうまくスタンツができなかったのですけれども、他の班のスタンツを見て、とても勉強になりました。自分がボーイスカウトに入っているので、「これは使えそう」と思えるものがありました。

３日目には、ロータリアンと班全員とで「自然とのふれあい」から地球環境について話し合い、資源の無駄使いやどうしたらゴミを減らせれるかを議論しました。

閉所式では、自分はグループの班長をしていたので、班でまとめた今回のライラ　３日間通じての感想を発表しました。あいかわらず緊張しました。今回の秋のライラに参加して、とても貴重な、かつ楽しい３日間を過ごせることができました。ありがとうございます。

また、機会があれば次も参加したいです。

初級ライラに参加した感想　　鄒　選

ライラに参加させていただいて、人生にとって、いい思い出になり、自分の中でいろんな新しい考えと変化がありました。この３日間に僕たちのチームはお互いに一体となって、一生懸命課題などをクリアして楽しくしゃべり、特に中には、外国人が二人いましたのでまるで国際チームのようです。外国の人を見ると僕たちにはない、違う考え方が今後の生活・仕事に良い影響をもたらすことができるかもしれないです。特に英語の勉強を強化する必要があります。

今回の活動を通じて人間の急ピッチな成長とともに、地球、この我々支えてきた居場所がなくなるかもしれません。地球温暖化、砂漠化、オゾン層の急減など、最近最も注目さ

れている地球の異常現象、すべて我々の手で壊しているのである。我々の生存する場所これからちょっとであっても日常生活に意識があって、有害ゴミを減らす、エネルギーの節約、こういう身近なものをちゃんとやっていくと、環境問題が緩和できるでしょう。

今後の仕事の中でもこういうきっちりする部分が大事です。製品の一次完成させるのも環境にやさしくなると思います。今後も努力を続けていきたいと思います。

上級ライラ受講生の発表

僕たち上級ライラのメンバーは皆さんよりも２時間早く野外活動センターにきまして、ここから５分ほど離れたキャンプ場で二泊三日を過ごしました。初めは何もないところにテントを張り、夜は食事の支度に使う薪がないということで、木を切って薪にして火を熾しました。初めは戸惑いながらしゃべることもなかったのですが、時間がたつうちに、一緒に料理をしている間に、ご飯を食べているうちに、夜みんなで火を囲んだ時、初めて会うメンバーも多い中で、今までから友達であったように普通に話せる仲間になっていました。初級が終わらないと上級にはいけないわけですので、是非上級にも参加されたら、僕の言っている意味が分かって頂けると思います。昨日、皆さんは森を散策されたと思いますが、その時、僕らは木を切っていました、何をしていたかと言うと、人間の手で作った雑木林は人間の手で手入れをしないと死んでしまいます。何故かと言うと太陽光が入らない。太陽光が入らないと木が段々と縦に細く長くなってしまいます。そうすると風なんかで折れやすくなりますので、木を切っていかなければ森は死んでしまいます。里山というところです。木を切ってみて、改めて上を覗いてみますと太陽の光が射していました。たった 14～15 本切っただけなのに光が入っていました。夜、懐中電灯も持たずに散歩したところ、十分明るくて、今回参加したメンバーは、環境ということを意識したのではないかと思います。最終日の今日、朝から藤などのツルを山から採ってきまして、一人ひとり作品を作りました。ここでも今までやったことのないことで、初めは戸惑いを感じていましたが、メンバーの一人は２つ作ったり、手伝ってあげたり、自然のうちにできるようになっていました。この二泊三日も普段では短い時間ですが、その中で絆が強くなったし、また、良いメンバーと出会えたと思います。時間に追われずゆっくりしたスローライフをエンジョイし、途中から後３日間ぐらいいた

いなということも話したりするぐらいでした。このような機会を作って頂いた地区青少年活動委員会の皆様、今回ホストをして頂いた大阪本町ロータリークラブの皆様、並びに信太山青少年野外活動センターのスタッフの皆様に、この８人は感謝しています。ありがとうございました。　それでは上級メンバーの皆さん、作品を持って前に出てきてもらえますか。ひとことづつお願いします。

【一言づつ】

◆松ぼっくりで作りました。他にも色々作りました。僕も初めて参加したのが前回の初級ＲＹＬＡです。今回は二度目でキャンプをしました。前には分からなかったことも今回は分かってきて、是非次の機会を楽しみにしています。

◆雑木林の自然のツタ、20mぐらいのものを巻いていくと、こんなになります。みんなが個性的なものを作られています。上級の良いところは、自然と人間は同じなんだということが感じられ、サバイバルな部分もありますが、良い思い出になります。

◆二泊三日、私たち８人はスタッフの皆さんと一諸でしたので、初級の方がどういうことをされていたのか全く分からず、きっと初級の方も上級の私たちをチラッとだけ見られたかと思います。私たちの中には何人か、ボーイスカウトをされていた方がおられて、火の点け方、テントの張り方に詳しく、初心者の者は何も知らなくても自分ができることからやるということで、二泊三日は意外と快適でした。お箸、シャモジも作りましたし、竹で目玉焼きをして、すごく楽しかったです。

◆今回、プレキャンプにまず参加させて頂いて、その時のテーマは「上級はワイルドでいこう」というもので、私はとても不安な気持ちでした。今回、二泊三日を体験させて頂いて、「ワイルドでも大丈夫や」と思いました。それはここにおられる８人のメンバーやロータリーの皆様、スタッフの皆様がよくしてくださって、支えてくださったからだと思います。プレキャンプの時の不安は全くなくて、今はすごい楽しい気持ちです。こういう気分を初級の人たちにも味わってもらいたいなと思います。

◆私が持っているのは、私が作ったものではありませんが門松です。この３日間を通して、とてもサバイバルで、参加する前は虫が大嫌いでしたが、少々の虫が味噌汁に入っていても平気になりました。このキャンプを通して自然と向き合うことができて、その中で自分がどのように自然と接していくか共存共栄の術を学ぶことができたのが、一番大きな体験だったと思います。初級の皆さんも来年秋に開催されると思いますので、是非参加されたら一生の思い出になると思います。

◆上級ＲＹＬＡの中では最年少です。年齢幅は10歳ぐらいですが、最後には敬語ではなく、普通に友達と話すような感じでみんなと打ち解けて話すことができました。皆さんも得意なことは色々あると思いますが、同じ土台に立ってできるのがキャンプだと思います。自分のできることを生かせば、みんなで力を合わせてできるということを感じたキャンプでした。

「初級の皆さんは、二泊三日で地球環境について話し合われて、たくさん考えられたと思います。私たちは実際に自然の中に入って、自然に近づくことで色々な体験をさせて頂いて、色々なことに気付いたりできました。是非皆さんにもこんな経験をして頂けたらと思います。」

上級ライラに参加して　　菅沼 史恵

ライラを修了して、自然と共生する術を体得できたことが一番の収穫でした。日常の生活とは掛け離れた非日常的な野外でのプログラムにより、五感をフルに使い、自然と接することが充分にできたと思います。

キャンプは人生で初めての体験で、テントを張ることも経験のない私が、この二泊三日を無事に過ごせるのかという不安を抱えながら信太山に重い足取りで向かった初日。すると、メンバーの中にも今回のキャンプが初めての方も何名かおり、ホット安堵いたしました。まずは、昼食。出逢ったばかりのぎこちない会話が飛び交う中、それぞれキャンプネームをつけ自己紹介が始まりました。男性3名、女性5名の計8名。

テントは、当初2棟の予定が、人数の多い女性とロータリアン用に2棟増やし、計4棟張りました。使用したテントは、ムーンライト型とドーム型。組み立て方が異なり、全員で力を合わせてのチームワークが重要な作業でした。この3日間は、そのままの竹を使った食器を利用する為、伐採した竹を使用して製作。その食器で食べるご飯は格別に美味しくあの空間を共にした仲間だけしか分からないといっても過言ではありません。

信太山は食材の宝庫でたくさんの山菜が生息していました。中でも、普段スーパーで目にするしその葉や春菊も取れ、柿も採集しデザートにしました。自然の恵みに感謝し、ありがたく食事をいただくすばらしさを実感しました。

その夜、焚き火を囲みながらの雑談には星が空一面にきれいに見える暗闇でのもと、意見交換を素直な気持ちで、心から話をする皆に出逢えました。そして、就寝。

なれない寝袋で寝た翌日、痛い体に鞭を打って、モーニングウォークをすると、清々しい気持ちが体中に充満し、軽くなりました。朝ご飯は昨晩より仕込んでいたダッチオーブンの中華粥。食材の味だけでこんなにも美味しい粥が出来たことに一同驚きを隠せませんでした。午前のプログラムでは、森林作業体

験を行い、手の加えられていない里山で、不要な木を伐採し、木漏れ日が入るように整備しました。無闇やたらに木を切るのではなく、どれが不必要なのかを即座に判断し切っていく見極めが大切です。

午後からは、先程の木を利用して、個々に作りたい物を考えクラフトをしました。それぞれが没頭し時間を忘れ、夕方になるまで必死に製作に取り掛かりました。構想通りに出来上がった瞬間の喜びは何とも言いがたい気分で充実感に満たされた微笑みに変わっていました。

その夜の月明かりのみでのナイトハイキングでは、普段は町のネオンとイルミネーションに囲まれて生活しているので、本来の月の明るさや星の輝きを見失っていることに気づかされ改めて自然の偉大さを痛感しました。最終日の朝、多くの試練を共にしてきたメンバーの意思疎通が初日よりも格段に囲まれ、それぞれが自分の役割を果たしながら取り組んでいる姿がそこにありました。ネイチャークラフトでは、藁を利用した籠を作成しました。自然を活かすのも殺すのもすべて人間の手にかかっているのです。所望すれば欲求が満たされることが日常的な生活の中では、上級ライラでの生活は、非日常的であり、そこから感じ取れる多岐に渡る自然との共生のすべは、今後の人生の軸と成り得ると思います。

この上級ライラにより、リーダーシップとは、メンバーの心の中にある自主性・自発性を最大限に尊重して力を合わせ、チームワークを発揮して行くことが重要であると悟りました。今後も多くの方がこのようなプログラムを体験され、人と自然の共生について、実践による収穫が実られることを期待いたします。

上級ＲＹＬＡに参加して　　水谷 光英

今回、上級ＲＹＬＡに参加し、まず思った事は、初級と違い全ての事に対して、自分達で考え、実行するという事だと思います。只、スタッフの方が言っているから…ではなく、スタッフの方に自分達から「次は何をしましょう？」や「こうしたいのですが？」という事だと思います。今回に関して言えば、１日目の昼食時に自分達で先に自己紹介をしていた事や、誰かが仕事をしていると必ず全員でフォローしていた事だと思います。

また、普段とても経験できない事を今回は色々と経験させてもらいました。その中でも間伐を行った事は、とても良い経験が出来たと思いました。植林は何度か行った事がありますが、山の中の木を伐採するという事は、考えた事が無かったからです。ただ単に木を植え増やせば良いと言うのではなく、木が大きくなるにつれて、間伐しなければ木は日光を受けなくなり、やがて枯れてしまう事になるのを聞き、奥深いものだと感じました。

上級の場合は、あまり時間的なしばりが初級に比べ比較的少ない事が大きな「ゆとり」

となったのではないかと思います。その「ゆとり」の中で自分達で考え行動する。また、スタッフの方々と色々な話が出来たり、メンバー同士の話し合いが出来て結果的にお互いを尊重し良い関係が出来たのではないかと思います。２日目の夜に大阪本町ＲＣの方々との交流会でも話をさせて頂きましたが、とても１日半だけの付き合いとは本当に思えないくらい本当に仲が良くなっていたのです。年齢の上下など一切なく、お互いを呼ぶ時は、あだ名で呼び合う事により、親近感が出たのではないかと思います。

最後になりますが、良いメンバーとの新たな出会いができ、色々貴重な経験をさせて頂き、非常に勉強になり、充実した３日間を過ごす事ができました。今回上級ＲＹＬＡに関わられたすべての方々に対して感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

秋の上級ライラについて　　國宗 智美

今回は、秋のライラに参加させて頂きまして、大変お世話になり、ありがとうございました。２泊３日の短い期間でしたが、とても楽しくまた勉強になった日々でした。

参加申込当初は初級ライラに参加させて頂く予定でした。しかし、以前初級ライラの参加経験がある私は、弊社社長の推薦で上級ライラに参加させて頂くことになりました。上級ライラは、大変厳しいとローターアクトのメンバーから聞いていましたので、プレキャンプまでは不安で不安で仕方がありませんでした。しかし、プレキャンプでの本町ロータリークラブの皆様の温かいお出迎えやアットホームな参加メンバーに出会い、不安は少しずつ拭い取られていきました。

プレキャンプからの少しの不安を残し、秋のライラ受付当日。初めて会う３人を含めた８人でキャンプがスタートしました。８人での最初の共同作業はテント張りでした。初めて会ったばかりのメンバーなのに、みんなで協力してテントを張ることができました。出会ったばかりの人との共同作業は、なかなか難しいのではないかと思っていた私は、あまりのチームワークの良さにただただ驚くばかりでした。みんな、それぞれが自分の出来ることをするという姿勢に、何か忘れていたものを気付かせてもらいました。８人みんなのこの姿勢は、キャンプの間、一貫されていたように思います。この気持ちは２日目になるともっと大きなものになりました。

夕食の準備をしている時のことです。それぞれが分担の仕事をしていたのですが、みんな自分の役割を終えた後、まだ準備しているメンバーを手伝ってくれました。誰が指示するではなく自分から手伝いをしてくれ、みんなで、ワイワイガヤガヤ言いながら、夕食はできました。日々の忙しい日常生活に追われている私は、改めて人への思いやりがどれほど大切かということを実感しました。８人のチームワークの良さは全て、メンバーへの思

いやりだと思います。これは、普段の仕事でも同じことが言えるなぁと感じました。同僚へのちょっとした思いが、結束、連帯感を生み、素晴しいチームワークになります。そして良い仕事ができる。人として当た前のことですが、この当た前を体験させてくれた今回のキャンプは、私にとって何者にも変えがたいものとなりました。2日目の夕食のことは、きっと何年たっても忘れることができないライラの思い出になりました。

不安だらけのライラでしたが、終わってみれば、あっという間の3日間でした。時よ止まれと、心底思いました。3日という短い時間のなかで、大変多くの初体験もさせてもらいました。また、日常ではなかなか感じることのできない思いをさせてもらいました。暗闇を懐中電灯なしで歩いたのもその一つです。普段は明りがあるのが、当り前の生活をしている私にとって、森の闇は全く新鮮でした。月明りだけで歩くことはできるし、虫の音も風の音も感じることができました。色々な風の音を耳にしたのも初めてでした。私達の生活がいかに物であふれているのかということを考えさせられました。私レベルで自然、ひいては地球に、どのように接することがベストなのか、いまだ答えはみつかりません。この3日間は、本当に様々なことを考えるきっかけをくれました。そして、素晴しいメンバーに出会えることができました。10年、20年後、私が結婚し子供ができたら、この3日間のこと、8人のメンバーのことを誇らしげに話すだろうと思います。

今回、上級ライラを推薦してもらい、大変感謝しております。また、こんなに素晴しいキャンプを企画して下さった本町ロータリークラブの皆様、清水さん、船附さん、美濃さん、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

ライラ修了証書授与

講 評

国際ロータリー第 2660 地区
青少年活動委員会
委員長　　泉　博 朗

ライラ受講生の皆さんのスピーチには感動いたしました。大阪本町ロータリークラブの皆さんも我々も精一杯やらせてもらいました。大阪市青少年協会の皆様、お世話になりました。チームライラの市橋君、山本君、森岡君本当にありがとう。
ここでの経験はコミニケーションを図り自分の主張を相手に伝える良い体験です。
でも仲良くなれば気持ちは自然に伝わります。先ほど発表の鈴木君にみんなの頑張れという気持ちが集中していました。素晴らしい仲間意識ではないでしょうか。皆さんは必ずリーダーになります。　まず子どものリーダーにならねばなりません。そして 20 年～30 年をかけてリーダーになってください。

ライラ旗の引継ぎ

大阪本町ロータリークラブ松村榮一会長から吹田江坂ロータリークラブ栢本淑子会長へとライラ旗が引き継がれました。

2006年度 春のライラホストクラブ

吹田江坂ロータリークラブ
会長　栢本淑子

ライラ参加者の皆様、お疲れ様です。
大阪本町ロータリークラブ様ご苦労様でした。
秋のライラを見せていただきまして私どもも気が引き締まる思いをいたしております。
　来春の「春のライラ」も背中に熱い風を感じるようなライラにしたいと思います。
是非、ご参加をお待ちしております。

吹田江坂ロータリークラブ
地区青少年活動委員会
委員　西上博幸

皆様、３日間大変お疲れ様でした。皆様がここで学ばれたことを帰ってから生かしてください。来年５月３日より大阪府立青少年海洋センターで「春のライラ」を実施いたします。ひとりでも多くの方にライラが素晴らしいことを伝えていただいて、この海のライラにもご参加をお願いいたします。

閉会宣言

大阪本町ロータリークラブ
ライラ実行委員会
委員長　田　晴重

ライラ受講生の皆さん３日間お疲れ様でした。これで全てのプログラムが終了いたしました。この秋のライラが皆さんの青春の良い思い出の一つになれば、国際ロータリー第２６６０地区および、ホストクラブをいたしました、大阪本町ロータリークラブの苦労が報われます。皆さんが今後とも若い世代のリーダーとしてますますご活躍されることを心より祈念いたしますとともに、最後になりましたが、ご協力をいただきました、ここ大阪市立信太山青少年野外活動センターの職員、スタッフの皆さんに深甚なる感謝を申し上げたいと思います。皆さん盛大に感謝の拍手をお願いします。
それでは秋のライラを閉会いたします。

クラブ別登録一覧表

クラブ名	RC会員	初級		上級	
		男	女	男	女
大東					
大東中央	1				
東大阪	1	3			
東大阪中央	2				
東大阪東	1				
東大阪みどり	3				
東大阪西					
枚方	2			1	
茨木	5				
茨木東	3				
茨木西					
池田	3				
池田くれは	3				
門真	2				
交野	2				
香里園	3				
くずは	3				
箕面					
箕面中央			1		
守口	3				
守口 ｲﾌﾞﾆﾝｸﾞ	2				
寝屋川	7				
大阪					
大阪 阿倍野	3		1		
大阪ちゃやまち	1				
大阪中央	7	4			
大阪堂島	3				
大阪 フレンド	5		1		
大阪阪南	1				
大阪東	3				
大阪東淀	3				
大阪平野	2				
大阪本町	29	16	13		1
大阪イブニング	2				
大阪城	1				
大阪城南	1				
大阪城東	1				1
大阪柏原					
大阪北	4				
大阪 北梅田	3				
大阪 御堂筋	3				
大阪南	3	1		1	
大阪 中之島	3				
大阪難波	3				
小計	127	24	16	2	2

※（RC会員 293名）（初級 61名）（上級 8名）

クラブ名	RC会員	初級		上級	
		男	女	男	女
大阪 なにわ	3		2		
大阪南西	3				
大阪西	2		1		
大阪 大手前					
大阪大淀					
大阪リバーサイド	3				
大阪咲洲	1				
大阪西北	1				
大阪西南	1				
大阪船場	3				1
大阪 心斎橋	1				
大阪城北	1		1		
大阪そねざき	35				
大阪 住之江	1				
大阪住吉	4			1	
大阪 天満橋	3		1		
大阪 天王寺	3			1	
大阪東南	3				
大阪鶴見	3	3			
大阪梅田					
大阪 梅田東	3				
大阪 うつぼ	46	3			
大阪淀川	4				
大阪ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙｼﾃｨ	1				1
千里	1				
千里 メイプル	3				
摂津	1	3			
四條畷	3				
新大阪		1			
吹田	2				
吹田江坂	3				
吹田西	3	3	1		
高槻					
高槻東					
高槻西	9				
豊中					
豊中南	1				
豊中-大阪国際空港	1				
豊中千里	6				
八尾	3				
八尾中央	3				
八尾東	2				
地区ローテックス			2		
小計	166	13	8	2	2
総合計	293	37	24	4	4

2005年秋のライラ受講生一覧表

【初級ライラ】 (61名)

氏　名	推薦クラブ	氏　名	推薦クラブ
鄒　選	大阪うつぼ	勇　香　織	地区青少年交換委員会（ローテックス）
岩切賢一		清水直子	
加藤拓巳		森下哲志	大阪本町
河田一真	大阪鶴見	本多高男	
進藤雄介		瀬名波 優太	
久保 コウタ		浅井翔太	
辻　義　史	大阪南	乗本英紀	
田中寛子	大阪西	平田朋美	
堀　志　帆	大阪フレンド	木村佳世	
平松和夫	吹田西	山田　瞳	
常石　誠		中塔友紀	
今井敦朗		三木英里	
サマンサ・ミッシエル・アンダーソン		道上絵里	
		道上 あずさ	
沢田英士	東大阪	尾崎奈緒	
日野真一		杉本尚美	
上野裕紀		藤岡三哉	
陳　梅　隠	箕面中央	大嵜正孝	
渡辺経彦	摂　津	笠島瑞代	
杉本佑允		柿野 起沙子	
野中厚志		吉次廣祐	
高橋　彩	大阪なにわ	藤田　静	
寺田　絢		谷　恵　美	
李　落　落	大阪阿倍野	森下貴史	
茶畑禎孝	大阪中央	里井誠司	
設楽忠勝		井上泰彦	
杉浦健一		小松裕宜	
吉川　学		安藤晴重	
エマ・オーケルマル	大阪天満橋	陳　珮　瀦	
鈴木寛史	新大阪	陳　家　菁	
サラ・ローズ	大阪城北	黄　彦　嵐	

【上級ライラ】 (8名)

氏　名	推薦クラブ	氏　名	推薦クラブ
岩井伸治	大阪住吉	矢野　宏	大阪天王寺
小島朋子	大阪船場	中谷文香	大阪ユニバーサルシティ
菅沼史恵	大阪南	國宗智美	大阪城東
水谷光英	枚　方	岸　貴美子	大阪本町

【チームライラ】 ◇市橋與宜　◇盛岡　豊　◇山本　浩　(3名)

収支決算報告書

収入の部		
地区よりの補助金	850,000	
I.M.第7組クラブ分担金	986,000	
ロータリアン登録	2,344,000	(293名)
上級ライラ登録	160,000	(8名)
初級ライラ登録	488,000	(61名)
合 計	4,828,000	

支出の部	
送迎シャトルバス	62,350
通信費	64,400
活動費	3,516,445
印刷費	857,850
消耗品費	1,437
諸会合費	98,850
保険料	36,000
雑費	90,668
上級ライラ活動補助金	100,000
合 計	4,828,000

《後記》

9月の秋雨前線も気を利かせてくれまして、9月23日（金）～２５日（日）は晴天に恵まれました。昨年度、台風の接近で止む無くライラ実施を取りやめされました大阪天王寺ロータリークラブ様の企画を引継がせていただき、当クラブがほぼ当初の企画を変更せずに、テーマを若干広げて実施いたしました。お陰様で３日間を無事に楽しく有意義に過ごせましたことは、当クラブ会員のみならず、ひとえに大阪天王寺ロータリークラブ様を始め、ロータリーパパをお引き受けくださり３日間を青少年の家に泊まり込んでいただきました各クラブのロータリアンの皆様に心から感謝を申し上げます。ライラのホストは初めてのことで、自己評価は難しいのですが、参加したライラ受講生には上級・初級ライラ受講生が共に、“楽しかった”と喜んでいただきましたことは当クラブ会員の半年間の苦労・努力が報いられたと喜んでいます。

他クラブのロータリアンに届いた受講生からのメールを当クラブに転送していただきました。私はこのメールで半年間の疲れが一変に吹き飛びました。

大阪本町ロータリークラブ御中

ライラのホストクラブでは大変ご苦労様でした。早速参加者より下記のお礼のメールが届きましたので、ご紹介させていただきます。

大阪うつぼロータリークラブ　土井靖士

土井様　ライラへのご紹介 有難うございました。（開口一番）メッチャ面白かった、ニュージーランドとアメリカの女の子と同じ班で、トランプゲームしたりで３日で５時間ぐらいしか寝てないね～　また、次のライラの時も紹介して貰えるように土井さんにお願いしてや。と本多も森下も口をそろえて言っていました。又、次回の時も参加させてあげて下さい。ロータリークラブの皆さんにも宜しくお伝え下さい。有難うございました。

森下哲志

追伸：やっぱり英語真剣に勉強しよう、、と！
ちょっとやる気？？が芽生えたかな。

ライラのような大きなプロジェクトに取り組むことにより当クラブの会員にも一段と団結心が強くなったような気がいたしますが、これも隠れた効果かと思います。ご協力いただきました大阪私立信太山青少年野外活動センター様、大阪市青少年活動協会様、チームライラ諸兄様、地区青少年委員会様、各ロータリークラブロータリアン様に心より感謝を申しあげ今後ますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

大阪本町ロータリークラブ

秋のライラ実行委員会

会員一同

青 少 年 の 家

開 催 日 2005年9月23日(金・祝日)～25日(日)
開催場所 大阪市立信太山青少年野外活動センター

2005年～2006年度 秋のライラ報告書
ホストクラブ:大阪本町ロータリークラブ
秋のライラ実行委員会